

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒が「わかった」「できた」を実感し、様々なことに挑戦する生徒の意欲を向上させる教育を実践する学校。
1 生徒一人ひとりの特性や能力に応じた学びを通じて、確かな知識や技能を身につける。
2 生きていくための知識や教養を備え、自他を尊重し、他者と協働しながら、自立して生きていく力「人間力」を身に着けた、より良い社会の創り手を育成する。
3 多様化した生徒一人ひとりの特性や能力を最大限に伸長させ、自己実現を図ることができるように、生徒一人ひとりに寄り添って、個々の生徒の特徴をより高めていく。

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化 (1) ICTを積極的に活用したり、創意工夫した計画的な魅力ある授業づくりを推進し、個別最適な学びや協働の学びを充実させ基礎学力の定着を図る。 ＊生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い。」(R4 :82. 8%, R5 :86. 0%, R6 :85. 0%) に関して令和 9 年度には87%以上をめざす。 (2) 校内での研究授業等を充実させ、授業力の向上を図る。 ＊生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい。」(R4 :75. 5%, R5 :76. 3% R6 :77. 4%) に関して令和 9 年度には80%以上をめざす。 (3) 多様な進路を実現するため、生徒の気持ちに寄り添ったていねいな進路支援を行い早期に進路目標を意識させる。 ＊生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」(R4 :88. 5%, R5 :86. 0%, R6 :88. 0%) に関して令和 9 年度には90%以上をめざす。
2 豊かな心と健やかな体の育成 (1) 基本的生活習慣の確立と規範意識向上に向けた取組みを推進するとともに、個々の生徒への支援体制を強化する。 (2) 授業やHR等において情報リテラシーを育成し、情報や情報技術を適切かつ安全に活用する力を身につける。 (3) 専門家を活用した教育相談体制をさらに進めたり、放課後等の生徒の居場所づくりや個々の生徒への支援を充実させる。 ＊生徒向け学校教育自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」(R4 :76. 9% R5 : 82. 3% R6 :82. 4%)に関して令和 9 年度には85%以上をめざす。 (4) 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進をめざし、障がい者理解や高齢者理解につながる取り組みを行い、「認め合い尊重し協働していく人」を育む。
3 教職員が力を合わせる運営体制づくり (1) 教職員相互の信頼や意思疎通、学校運営への参画意識を醸成し、チーム上高が丸となった取組みやアイデア発案を増やす。 (2) 組織業務の精選と簡素化、業務量の検討を行い「働き方改革」に即した労働時間の適正化を図り、教職員のウェルビーイングを高めていく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 7 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
・「授業は、わかりやすく楽しい」の肯定回答は 81. 2% (3. 8%増) と増加しており、「学校へ行くのが楽しい」81. 2% (4. 8%増)「自分の学級は楽しい」89. 4% (6. 0%増) と合わせ、大半の生徒は楽しく学校生活が送れていると考えられる。また「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定回答は 82. 0% (3 %減) であるが、「選択教科の時間は工夫されていて、自分の学びたいことがらを選べる」85. 2% (3. 6%増) であり、その他の授業に関する項目でも肯定回答が増加している。今後もわかりやすく質の高い授業づくりを組織的に推進していく。生徒向け学校教育自己診断全体では 51 項目中 45 項目で肯定評価であった。保護者向け学校教育自己診断の回収率は 31. 4% (7. 3%増) となり、回収時期を早めたことが増加理由の一つと考えられる。 【生徒指導について】 ・生徒指導に関する項目について、生徒は「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定回答が 75. 0%(昨年同率)である一方で、保護者対象の項目「学校の生徒指導の方針に共感できる」の肯定回答は 63. 9%(7. 8%増)と生徒の回答に比べて差はあるが、狭まっている。教職員が朝の登校指導や学校外での登下校指導も行っているが、道路状況での課題は残されている。生徒が納得いく指導を保護者にも理解を得ながら、今後も進めていきたい。 【進路指導について】 ・生徒対象項目「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定回答は 89. 9%(1. 9%増)、「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定回答は 90. 7%(1. 1%増)と高水準で微増している。情報提供が、メールでの周知や紙面とメールとの併用等、状況に応じて使い分けしながら行った。一方、保護者対象項目の「学校は進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」の項目は、54. 0%(4. 0%増)となり、今後も丁寧な情報提供を心掛けていく。 【生徒会活動について】 ・「生徒会活動は、活発である」の肯定回答は 72. 5%(2. 8%増)と増加、また文化祭で地域の保育園との連携を初めて行ったことにより「授業や部活動、学校行事などを通して、ほかの学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」50. 9%(6. 8%増)の増加に繋がったと考えられる。 【生徒相談について】 ・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定回答は 85. 8%(3. 4%増)、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」の肯定回答は 82. 0%(4. 6%増)、また、新たに設問項目を設けた「先生は、日常生活や家庭生活について私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定回答は 86. 7%と高水準であった。生徒が学校生活を送る中で、相談したいことがあれば相談できる環境にあることが伺える。	第 1 回学校運営協議会 R7. 6. 24(火)実施 ○ 進路状況の資料にあるように、多様な進路を応援し、フォローアップする高校としての姿勢を学校特色枠の設定や広報について、強調しても良いのではないか。進路未決定が低いということは、将来に迷っている生徒が 3 年間の高校生活で自分の進路を定めることができた表れだと思う。これまでと比較して多様な層の入学者が増加したというところであり、今後もその傾向が続くとすると、進路対応もこれまで以上に重要になるだろう。 ○ 自転車事故防止やマナー向上のための講習会を警察等と連携して実施しているが、学校周辺の道路環境（登下校時の生徒の安全確保、交通ルール遵守）について、警察での安全教室の実施並びに道路整備については自治会、西区、堺市への要請をお願いしてはどうか。 第 2 回学校運営協議会 R7. 12. 23(火)実施 ○ 一層魅力ある学習活動や今後の高等学校に関しては子どもの数も減っていてクラス数も少なくなっているので、子どもから選ばれる学校になるように、生徒の意見を聞いて学校がどんどん変わることが大切である。 ○ 地域連携や中学生、保護者に伝わる広報活動については、高校生と小学生の連携や地域のお祭りなどでの連携等も考えられる。 ○ 部活動の紹介・広報として連日活動するクラブだけでなく、生徒の希望を取り入れ、働き方改革等も考慮した部活動はどうか。 第 3 回学校運営協議会 R8. 2. 16(月)実施 ○ 校外における生徒指導や補導について、地域の小学校・中学校と連絡を取り合い、連携して指導することも方法の 1 つである。 ○ 学校教育自己診断について、質問内容の捉え方が人によって異なる設問があると感じられる。設問の仕方を検討して良いのではないかと。ただし、定点観測の観点から、質問項目の変更は慎重に検討するべきである。 ○ 学校の広報として、生徒を巻き込んだ方法を検討してはどうか。 ○ 地域連携・学校の広報として、4 月の地域のお祭りへの参加依頼をしたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R6年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	(1) ICT を積極的に活用したり、創意工夫した計画的な魅力ある授業づくりを推進し、個別最適な学びや協働の学びを充実させ基礎学力の定着を図る。	(1) ア・学習内容に対して達成感を持たせることができるように、1人1台端末をはじめとするICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現をめざした学習活動を行う。そのことを通して、工夫ある教科指導による授業づくりに取り組む。 イ・グローバル社会に対応できる人材育成をするため、デジタルコンテンツ等の活用授業等における言語活動を充実させ、生徒の英語運用力、とりわけ英語を「話す力」の育成など、授業を充実させるなど魅力ある授業づくりを推進する。 ウ・不登校生徒の学びのアクセスを確保する観点から個々の生徒の実態に応じた学習支援体制の構築を行う。	(1) ア・ 生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」を86%以上にする。[85.0%] イ・生徒向け学校教育自己診断「学校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」を95%以上にする。[94.2%] ・英語学習ツール等を活用し「発話」の機会を増やす授業を10回以上行う。 ウ・遠隔授業等の授業体制を構築し、不登校生徒支援として学習機会の確保ができる体制を整備する。	(1) ア 82.0%(○) (目標に到達しなかったが、選択教科の工夫は3.6%、授業への興味に関する項目は3.8%増加している) イ 87.7%(△) 「発話」24回(◎) ウ 整備済み(○)
	(2) 校内での研究授業等を充実させ、授業力の向上を図る。	(2) ア・学習指導要領を踏まえて「観点別学習状況評価」を進めるとともに、授業研究委員会を核とした授業実践に向けた教員研修を実施する。 イ・授業見学及び研究協議を充実させ、生徒の学習活動に関する課題を教員が共有するなど好事例を共有することにより、同僚性を活かした授業改善を図る。	(2) アイ・教職員向け学校教育自己診断「指導内容について、教科の担当者と話し合う機会がある」について78%以上にする。[77.4%]	(2) アイ・69.2%(△)
	(3) 多様な進路を実現するため、生徒の気持ちに寄り添ったいてねいな進路支援を行い早期に進路目標を意識させる。	(3) ア・外部講師等による進路講演会実施や就職支援コーディネータの活用、内定者指導、進学講習など、個々の生徒の希望に応じたきめ細かな進路指導を行う。 イ・4年制大学、医療看護系、就職関係など個々の進路に応じた個別講習を実施する。	(3) ア・大学、専修学校、企業等と連携した実践的キャリア教育の取組みを3回実施[3回] ・生徒向け学校教育自己診断「学校は進路についての情報を知らせてくれる」を89%以上を維持する。[89.6%]	(3) ア 11回実施(◎) 90.7%(○)

府立堺上高等学校

2 豊かな心と健やかな体の育成	(1) 基本的生活習慣の確立と規範意識向上に向けた取組みを推進するとともに、個々の生徒への支援体制を強化する。	(1) ア・遅刻回数による段階指導や遅刻防止週間、入室許可書等これまでの指導システムを継続しつつ、個々のケースの原因の解決にあたることにより、遅刻数の減少に取り組む。 イ・未然防止をねらいとした発達支持的生徒指導や、起こった事象をすべての生徒の課題として観点を広げて捉え、進路実現などとも関連させて、服装等身だしなみの指導の在り方を検討する。 ウ・自転車事故防止やマナー向上のための講習会を警察等と連携して実施するとともに、駐輪指導やヘルメット着用の必要性の理解推進等、自転車関係の指導を強化する。 エ・いじめはどの学校でもどの生徒でも起こりえるものと認識したうえで組織的に取り組む。 オ・校則等、生徒が主体的に関わる機会を設けたうえで絶えず点検・見直しを行い、生徒等の状況に応じた指導の工夫と改善を行う。	(1) ア・遅刻統計の総数で前年度比減をめざす。 [5211 回] イ・ウ ・生徒向け学校教育自己診断「学校は基本的生活習慣の確立に力を入れている」の肯定回答率を 86%以上にする。[85. 8%] エ・生徒向け学校教育自己診断「先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定回答率を 87%以上にする。[87. 2%] オ・生徒会の生徒等から学校生活について意見を聞く機会を設ける。[新規]	(1) ア 5900回 (△) イ・ウ84. 8% (○) (目標に到達しなかったが、保護者の肯定率は3. 2%増加している) エ 86. 0% (○) (目標に到達しなかったが、保護者の肯定率は10. 2%増加し、「悩みや相談に応じてくれる」の生徒項目では3. 4%増加している) オ 校長タウンミーティング、西区长との意見交換前打ち合わせ [2回] (◎) カ 1 回実施 (○) (2) 4 回実施 (◎)
	(2) 授業やHR等において情報リテラシーを育成し、情報や情報技術を適切かつ安全に活用する力を身につける。 (3) 専門家を活用した教育相談体制をさらに進め、放課後等の生徒の居場所づくりや個々の生徒への支援を充実させる。 (4) 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進をめざし、障がい者理解や高齢者理解につながる取り組みを行い、「認め合い尊重し協働していく人」を育む。	(2) ・情報科の授業や探究の時間、HRにおいて、情報社会における危険回避の方法を理解し、セキュリティの知識・技術及び健康への意識を高めたり、専門家と連携した指導を行う。 (3) ア・校内の教育相談コーディネーター等を中心とした校内委員会を活用し、SCやSSW等の専門人材を積極的に連携し、生徒間のトラブルに係る教育相談を実施する。また、生徒会活動等と連動し、放課後等の生徒の居場所づくりを企画したり、教育相談ができる部屋の活用を進め、個々の生徒への支援を充実させる。 (4) ア・社会資源(障がい者スポーツセンターや福祉施設等)と連携し、授業や生徒会活動・委員会活動等を通して、ともに助け合い、支え合って生きていく大切さを学び、障がい者や高齢者の理解につながる取組みを行う。 イ・高等学校支援教育力充実事業等を活用し、教員力の向上を図る取組みを行う。	(2) ・警察や携帯電話会社、専門学校等と連携し、情報モラルについての講習会等を年間 3 回以上実施する。[2 回] (3) ア・生徒向け学校教育自己診断での質問項目「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」について 80%以上をめざす。[82. 4%] (4) ア・「ライフスポーツ」の授業での、車いすバスケットボールやボッチャ体験、家庭科の授業や生徒会活動等での社会資源と連携した取組みを年 3 回実施する。 [4 回] イ・支援教育サポート校等と連携した研修を 1 回以上実施する。[新規]	(3) 85. 8% (◎) (4) ア 4 回実施 (○) イ 1 回実施 (○)
3 教職員が力を合わせる運営体制づくり	(1) 魅力ある学校づくりと広報活動の充実 (2) 組織業務の精選と簡素化、業務量の検討を行い「働き方改革」に即した労働時間の適正化を図り、教職員のウェルビーイングを高めていく。	(1) ア・「堺上高杯」を実施し、地域の中学校との連携を深める。 イ・堺上高校の魅力ある学校づくりとその情報発信を、SK 委員会(将来構想委員会)だけでなく、全教職員が積極的に取り組む。 (2) ・「全校一斉定時退庁日」を週 1 回設定し、時間外在校等時間の縮減に向けた教職員の意識改革、府の部活動方針の遵守と休養日の設定を促し、一人ひとりが勤務時間管理や健康管理に取り組む。	(1) ア・「堺上高杯」を計画的かつ組織的に実施し、昨年度と同水準の中学生の参加を維持する。 [48 校 960 名] イ・WEB ページや SNS 等の発信回数を、300 回以上行う。[296 回] (2) ・教職員向け学校教育自己診断「教職員の適正、能力に応じた校内人事や校務分掌がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」を 55%以上にする。[54. 6%]	(1) ア 48校960名 (エントリー数) (○) イ 607回 (◎) (2) 65. 4% (◎)